

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571200231		
法人名	社会福祉法人 恒和会		
事業所名	グループホームゆうわ苑		
所在地	〒742-1352 柳井市大字伊保庄近長浜1-4		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町受理日	平成23年7月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者の方々は敬意を込め、お名前は様付けでお呼びしています。入所者・家族・職員を含め、大家族で生活しているという考え方の元で必要以上の介護はせず、協力しあう事の大切さやその方らしい生活を尊重することを日々の介護の中で、言葉や態度で示すようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者、家族との関係が良く、職員同士のコミュニケーションが図られ、事業所内の雰囲気は和やかで、利用者の穏やかな笑顔や、利用者が他の利用者や職員を気遣っている様子が伺えたり、春の花見には家族も一緒にお弁当づくりに参加されるなど、「大家族で生活している」という考え方を実践しておられます。法人の人材教育委員会主催の研修は、同じテーマで3回行われ、職員が参加しやすいように配慮しておられ、外部研修への参加、ミーティングでの内部研修など、職員のスキルアップのために取り組まれています。カフェツアーとして、ホテルのパン屋でおいしいパンを食べることを企画され、利用者が楽しい時間を過ごされるなど、散歩、月1回のドライブ、年4回のバスハイク等の外出支援や、多くの活躍できる場面づくりをされて、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「皆さんがその方らしい生活ができる」ことを理念とし、職員全員が認識している	「その人らしい生活を尊重する」という理念をつくり、ミーティングで話し合い職員間で共有している。地域密着型サービスの意義をふまえた理念はつくっていない。	・地域密着型サービスとしての理念の検討
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で納涼祭、元気祭りなど地域交流行事を主催したり、慰問など取り入れ交流をもっている	歌や楽器演奏などのボランティアの訪問や法人主催の納涼祭と元気祭りには、多くの地域の人の参加があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で地域貢献できる事を検討している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員全体で行い、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善方法について検討している	主任が自己評価したものをミーティングで全職員で話し合い、評価に取り組んでいる。重度化や終末期に向けて、職員がどこまで出来るのか、ハード面など課題を検討している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回現状報告をすると共に様々な取り組みについても話し合いや意見交換を行いサービス向上に努めている	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や取り組みなどについて報告し、活発に意見交換して、出された意見は運営に活かしている。防災訓練への地域の人の参加についてなど、話し合っている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人の地域連携室を通して話し合っている	運営推進会議や法人の地域連携室を通して話し合ったり、市担当課と電話で相談や意見交換を行い、連携に努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束につながる行為の理解に努めたと共に、カンファレンスで検討し、共有スペースを活用した見守りなどケアの工夫をしている また、法人内に身体拘束廃止委員会を設置し、学習会をおこなっている	マニュアルがあり、法人の委員会での勉強会やミーティングで周知徹底して、職員は理解している。玄関は常時施錠している。	・鍵をかけない工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会に参加し、防止にも努めているが具体的な防止方法について学ぶ機会を設けた事がない		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、各制度による支援を必要としている 該当者がいないこともあり、勉強会や活用についての検討をしたことがない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い書面での契約を行っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談受付担当者を明示すると共に、意見箱を設けている	面会時、運営推進会議時、電話等で家族から意見を聞き、運営に反映させている。意見箱の設置もしている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで積極的に意見を求めると共に、日頃から連絡ノートや口頭での報告・連絡・相談を密にするように努めている	毎月のミーティングや主任による個人面談、日常の業務の中で意見を聞いてサービスに活かすように取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で年2回人事考課を行い、職員個々の努力や実績を評価すると共に、通常業務においても職員の向上心に配慮した業務配分を行うよう努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人材育成委員会を設け、年間を通じて様々な職員研修を計画的に実施していると共に外部研修の機会も必要に応じて設けている	法人の人材育成委員会でテーマを決めて計画を立て、法人内研修(同じテーマで3回)を実施し、職員が参加しやすいよう配慮している。外部研修は、勤務の一環として参加し、ミーティング時に15分程度の勉強会を行い、職員を育てる取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会に加入し、研修や交流会の場には積極的に参加するよう努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前から何度か体験利用を行い、本人さんとお話するよう努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用まで何度か面接を行いお話を聴いている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは性質上相談を受けた際即入居できない場合もある為、早急な支援が求められる場合には他施設サービスや在宅サービスについても説明している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、食事の準備・片付け・掃除・洗濯・季節の壁飾りの作成などあらゆることを共に行い、大家族として一緒に生活をしているという関係作りに努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から何でも話しやすい雰囲気作りを心がけると共に、年数回ある家族の参加行事を行い利用者、家族、職員の信頼関係が築けるよう努めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも話し合い、苑でできる範囲での対応と家族での対応を両立させ、出来るだけ自由に出かけられるよう支援している	馴染みの美容院の利用、墓参り、友人や知人の訪問、手紙での交流など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士会話をしているところも見られるが、難聴などにより会話が途切れたり聞き違いからトラブルになりそうな時などは、必要に応じて仲裁・見守りをするよう努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までのサービス利用のあった方は、季節の挨拶を手紙にて続けている ホームの近隣の病院等に入院されている方には、折を見てお見舞いに出かけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言動からの意向の把握に努めている はっきりと意思表示されない場合でも、カンファレンスなどで意見交換し検討している	アセスメントシートの活用や、利用者との日常の会話、日々の暮らしぶりを通して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からも聞きとり、本人の立場に立って、職員全員で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で言動からの把握に努めると共に、家族からも話を聞くようにしている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で言動からの把握に努めると共に、家事や作業の分配を工夫したり記録など参考にしながら現状把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて全職員で情報交換、検討し決めたケア内容をそのまま反映している	月に1回行なうケアカンファレンスで、利用者について全職員で話し合い、毎月のモニタリングや把握している家族や本人の意向を参考にして介護計画を作成している。6ヵ月毎の見直しや利用者の状況に合わせた見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の詳しい言動やそれに対する職員の対応等を詳しく個別記録に記入することで、実践や介護計画に役立っている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回以上の行事の実施や車での外出、また個別の要望にも出来るだけ応じるなどグループホームだからこその支援の充実に努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人を通じての協働にしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、地域に今まで馴染みのかかりつけ医がある方は引き続き利用され、特にない方は医療機関をかかりつけ医とし1ヶ月に1回程度の定期受診、特変時のかかりつけ医で対応できるようにしている	入居前からのかかりつけ医や希望する医療機関へ家族同行で受診している。家族が不可能な時や必要時には職員が付き添い支援し、協力医療機関の受診の支援など、適切な医療を受けられるよう配慮している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護職員と連携をとりながら、日常の健康管理、医療の活用の支援をしている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のお見舞いを兼ねて直接情報交換や相談に行くと共に、家族とも随時連絡を取りながら退院時のスムーズな受け入れができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為や管理が必要となった場合には、ホームでの対応が困難な為家族と話し合い医療機関へ入院が主となっている。重度化については、どこまで対応できるかあいまいな為話し合いで支援している	契約時に重度化した場合の対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医、家族、関係者等で話し合っ方針を決めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人の委員会での勉強会などに参加し、事故防止に取り組むと共に応急手当ができるよう努めている	事故報告書に記録し、ミーティングで対応策を話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。救急救命法を年1回受講し、日常の業務の中でも応急手当の訓練を行い、実践につなげている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い避難方法について学んでいる 法人を通じて協力が得られるように支援している	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議を通して地域の協力が得られるよう話し合いをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で言動に配慮すると共に、ケース記録の記入は事務室内で行うようにしている	マニュアルがあり、利用者を人生の先輩として一人ひとりの尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように配慮している。気になるときは主任が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で希望の表出や自己決定ができるような意図的な声かけをするように努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴・食事・就寝などの時間は大まかに定めているが、その時々希望や体調により臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は家族対応で希望の店、もしくは苑の美容サービスを利用している 行事や外出の日は、前日から服を選んだりお化粧したりとおめかしし、気分を盛り上げている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯や味噌汁の調理、盛り付け・食事・後片付け全てを利用者と職員が共に行っている 法人の厨房から決まった献立が調理済みでもらえるが、アレルギーや好みによる食材の変更・形状の変更も可能となっている	法人の厨房で調理された副食を、利用者と職員で盛り付けし、同じものを食べ、後片づけ(食器洗い、食器拭き)を一緒に行っている。 食材や形状を変えて食べやすいように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食の摂取量を記録に残している 水分も毎食と10時と15時おやつ時にとっていただけるよう工夫している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後のうがい、夕食後の歯磨きをおこなっている 義歯は夕食後預かりブラッシングしている 週1回洗浄している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗がある方もなるべくオムツや紙パンツの使用を減らし、タイミングを見計らってトイレでの排泄を促している	排泄チェック表を活用して、パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。利用者は全員でトイレでの排泄をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カンファレンスなど利用し、個別に原因について話し合い飲食物・運動・服薬など工夫している 排便状況もチェックしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は月曜日～土曜日まで毎日15:30～17:30に入る事ができる	毎日15:30から17:30の間、ほぼ全員の利用者が入浴している。バープやほうじ茶の葉、ゆず、みかんの皮などを入れて楽しむようにしている。入浴したくない利用者にも無理強いないでタイミングを合わせたり、他の利用者が声をかけてくれるなど、様子を見ながら対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一斉に消灯ということはず本人に任せ、体調や生活習慣に合わせて入眠を促している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当を決め、その職員を中心に薬の管理を行っている。内服一覧表をファイリングし、全職員が把握に努めている。主治医及び薬剤師に本人の状態など家族をとおして情報を提供している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除・洗濯・花の手入れ・縫い物など個人の得意分野を生かせるよう支援している	テレビ視聴、本や新聞を読む、テレビ体操、歌、習字、漢字の書きとり、ぬり絵、計算、利用者同士で本の読み聞かせをする、食事の準備や後片づけ、洗濯物干しや洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が穏やかな日は、戸外にでて散歩や庭の手入れを楽しんでいる。月に1回程度ドライブなどに出かける支援を行っている	散歩や庭の花の手入れ、公園へのドライブ、季節の花見、カフェツアー(おやつを食べに)など、外出を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭所持は、トラブルの原因になるの為現段階では所持を認めていない		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力も得て出来る限り電話や手紙の希望に応じている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや小物を設置したり花を生けたりと見た目にも楽しい雰囲気を作り、また音の大きさや照明は利用者の意向を確認しつつ調整している	玄関には季節の花を活け、畳のスペースもある。フローアーには季節に合わせた飾りつけがしてあり、利用者が落ち着いて居心地良く過ごせるように工夫している。明るさや音、温度、換気について配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間には家の居間を思わせるようなテレビやソファ、たたみスペースを設置し、利用者が思い思いに過ごせるよう工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある小物や小ダンスなど持ち込みは自由で、壁面には苑で作成した作品を飾っている。ベット・棚・カーテンには備え付けの物を使用している	事業所の備え付け以外に、ソファや小ダンス、生活用品が持ち込まれている。利用者の作品や家族の写真が壁に貼ってあり、本人が安心して過ごせるように配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー設計になっており廊下・居室は手すりを設置している。浴室は一般浴槽の為個人の身体機能に合わせて支援している		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆうわ苑

作成日: 平成 23年 4月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7 (6)	・現在、終日電子錠がかかっており、入所者の方が外に出たいときに自由に入出入りができない状態にある為、少しずつでも改善していきたい。	・日中は本館に通じるドアの電子錠を開放する。	・時間を決め(12:00～15:00)職員数がある時は開放する。 ・まず実施し時間を長くしていく	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。